



「エネルギーの将来について、
確たる知識に基づき、
価値観を越えて合意をつくる」

プロジェクト

〔第7回ワークショップ〕

エネルギーの将来はどうあるべきか (その2)

本プロジェクトの
マスコットキャラクター
ぷよたまくん



本事業は、経済産業資源エネルギー庁の支援を受けて実施しています。（事務局：（一財）日本立地センター）



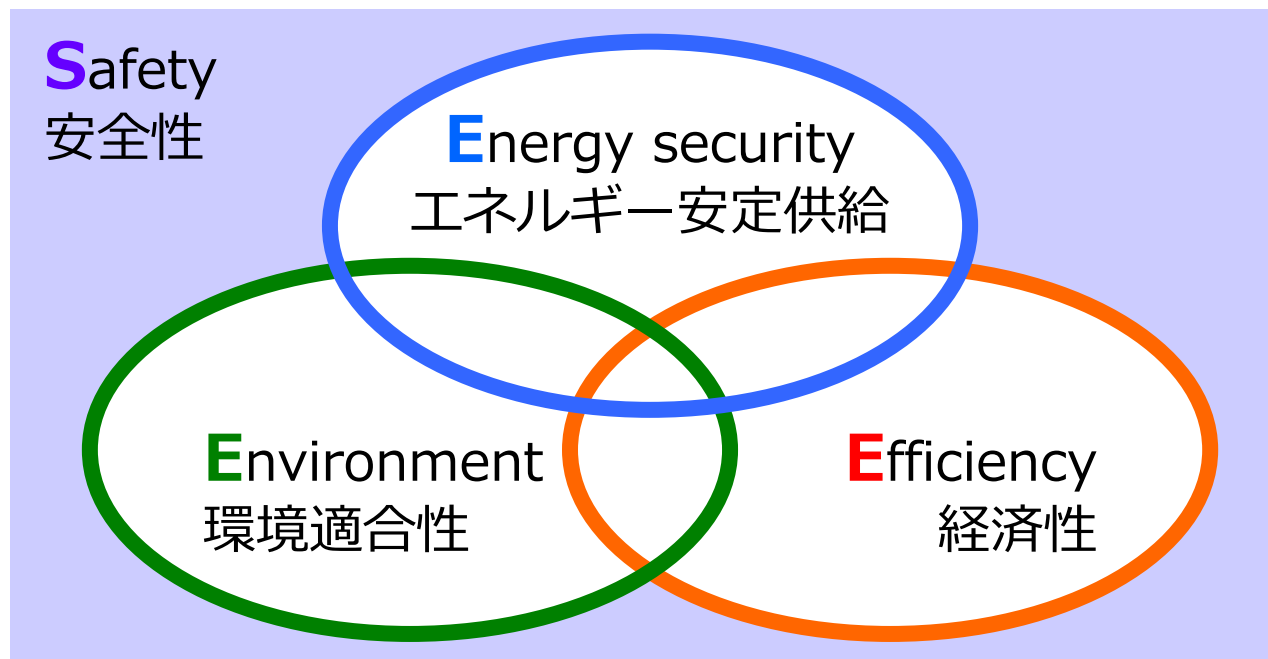
プロジェクトが目指すもの

- ▶ エネルギーについてよく知り、自分の意見を持った上で、周りの意見を尊重しながら、エネルギーの将来についての「合意」を目指して話し合う。
 - 最終的には、**2050年の日本のエネルギー構造**について考え、話し合う。それを目指してワークショップを進める。
 - もし合意が取れなかったとしても、「合意」を目指すためには、さらにどのような情報が必要になるのかを話し合う。プロジェクトでは合意を目指す、全6回のワークショップで必ず取らなければならないということはない。



エネルギーの将来を考える

- ▶ エネルギーの将来を考えるには、「3 E + S」が重要とはよく言われる。大前提のSに加え、3 Eのトリレンマを考えなければならない。



これで十分
…なのかな？





「エネルギーの将来について、
確たる知識に基づき、
価値観を越えて合意をつくる」

プロジェクト

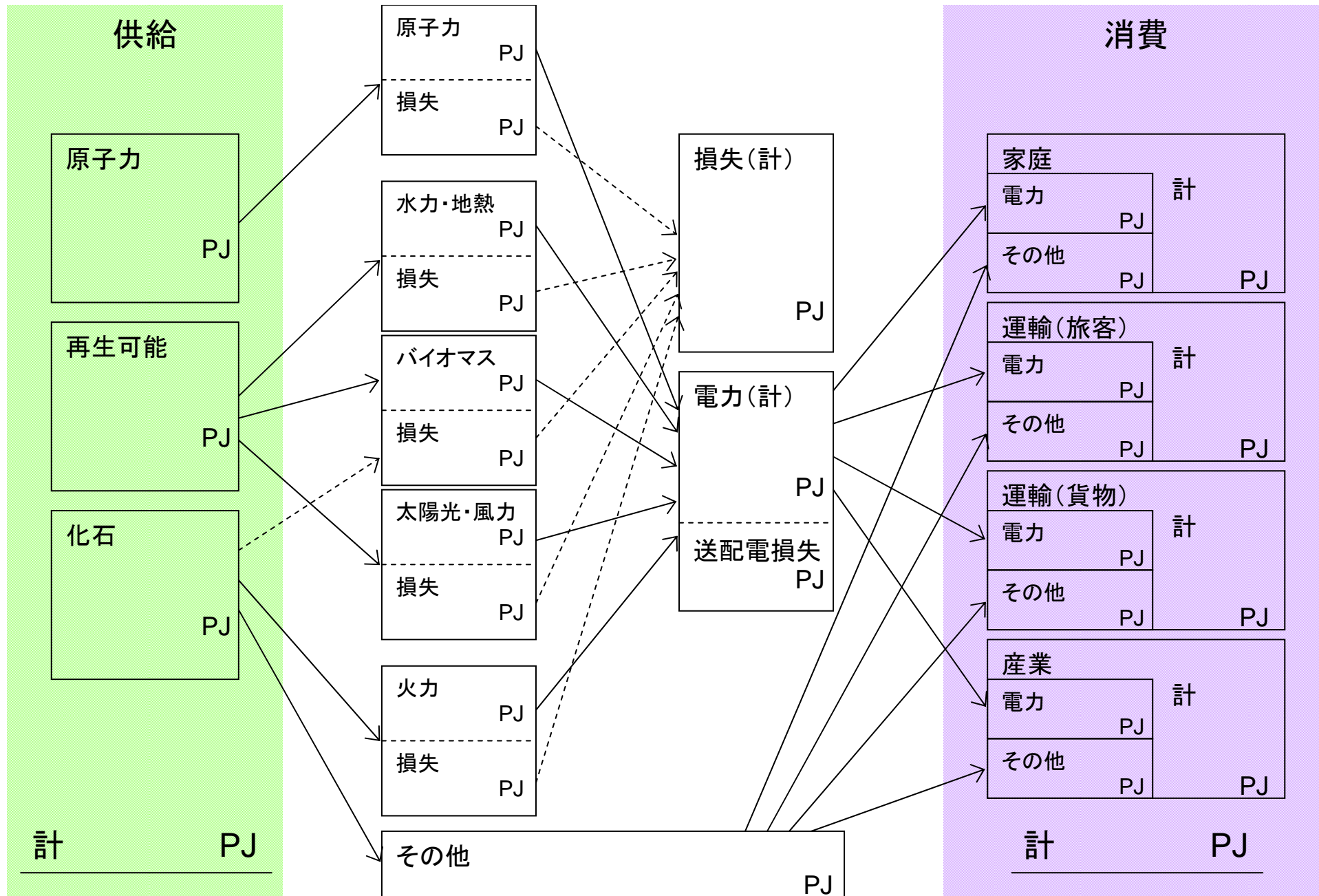
〔ステップ1 …60分〕

2050年のエネルギーフローを 話し合いながら、まとめてみよう

- 消費側（25分目安）、転換部・電源構成（25分目安）
- 技術革新等の検討も含めてみよう。
- 完成したら、皆が納得できているかどうかを見直そう。



ちょっと複雑だけど・・・

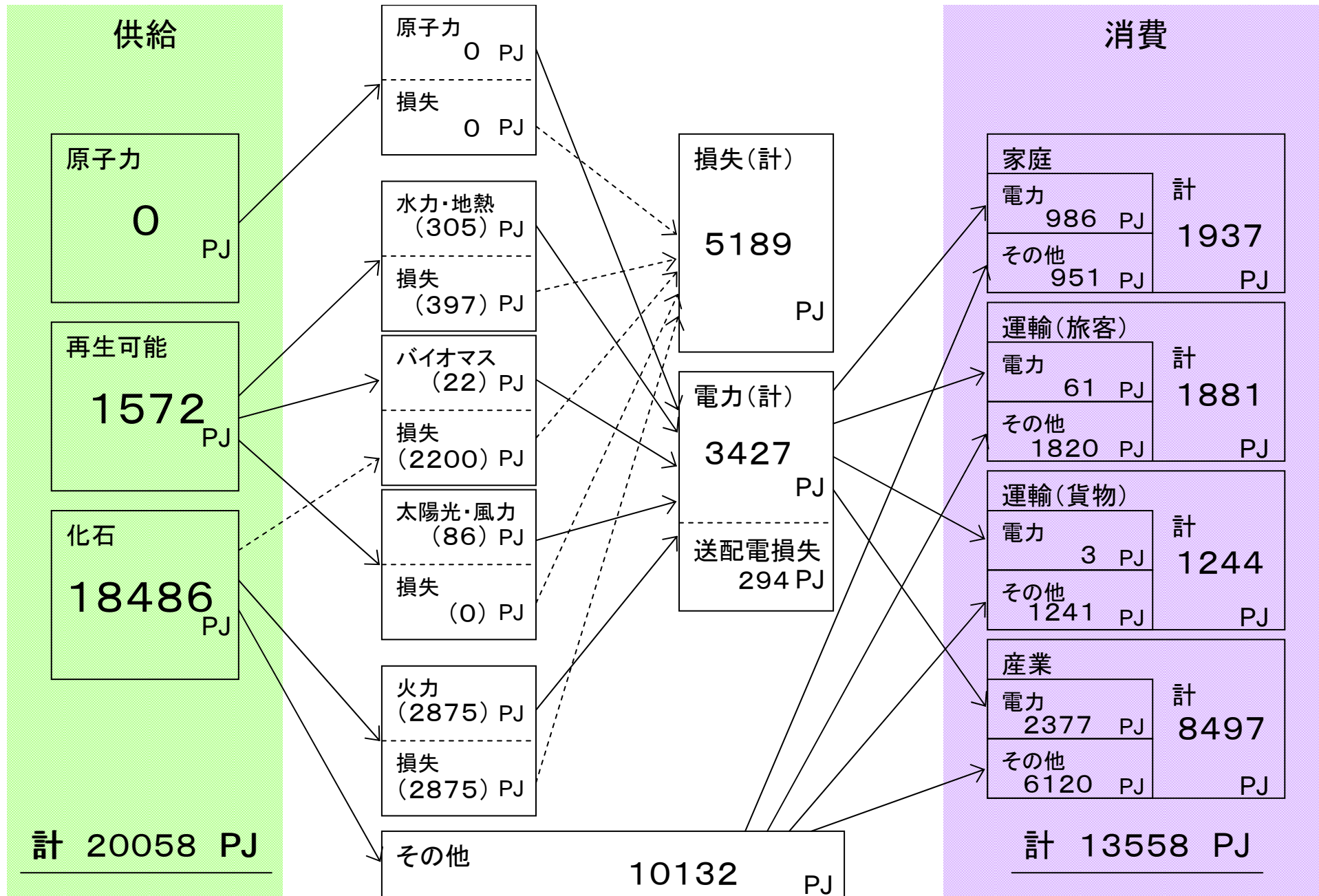


氏名 _____

自給率:

CO₂削減率:

コスト:



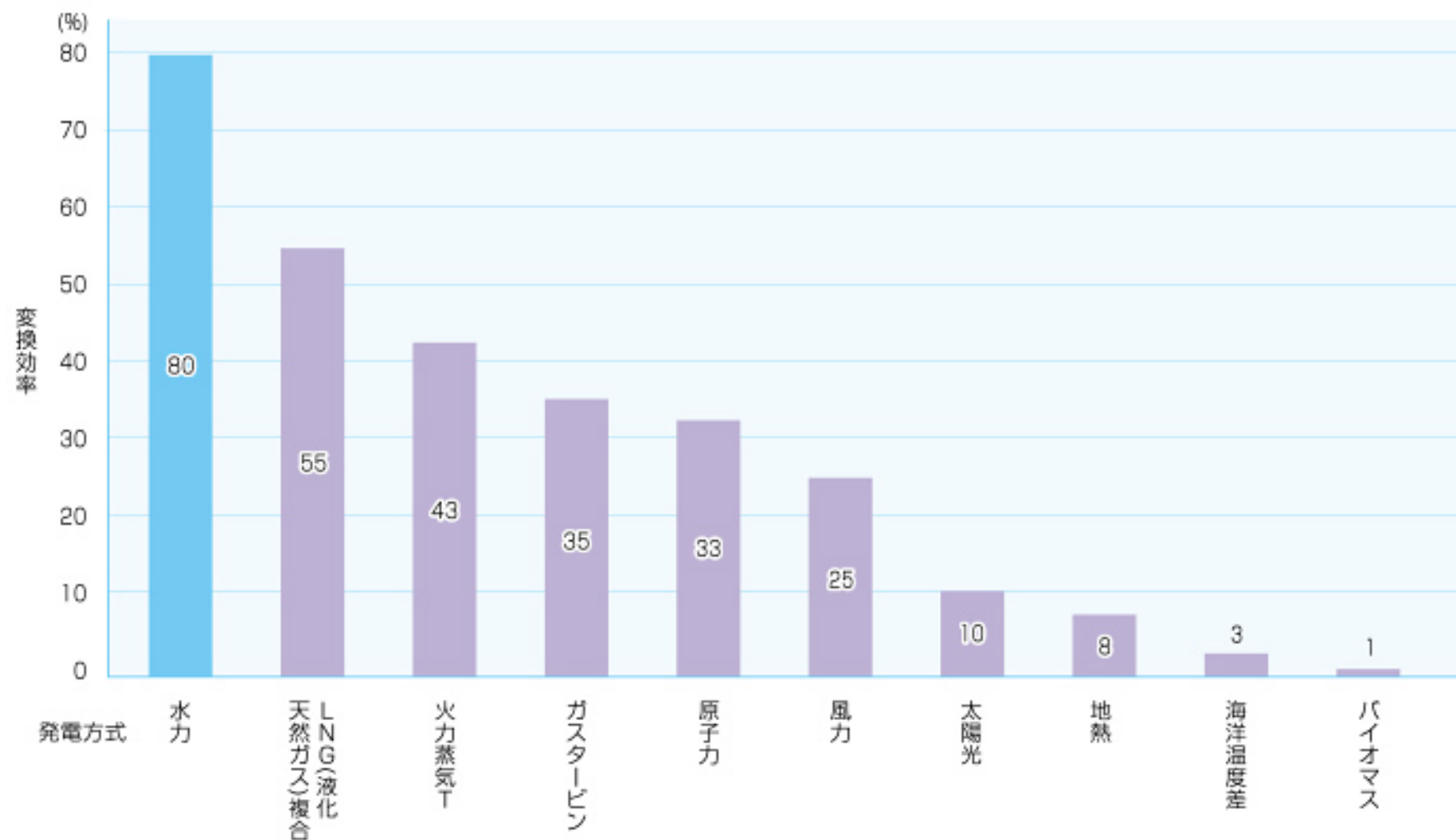
2014年度

自給率: 6%

CO₂排出量: 107.3%
(1990年比)

コスト: 6万円/人・年

各種発電方式別にみたエネルギー変換効率



出典：新エネルギー大辞典



「エネルギーの将来について、
確たる知識に基づき、
価値観を越えて合意をつくる」

プロジェクト

〔ステップ2 …30分〕

2050年の社会を実現するには

- 2050年に向けて、このエネルギーフローを実現するためには、
どういうことをしていかなければならないのでしょうか。

しっかり考えよう！

